

令和5年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
40	川崎市立中野島中学校	内田 和之

学校教育目標	今年度の重点目標	
○心の健康な中学生: 自主自律の心を持ち、心豊かで思いやりのある生徒 ○体の健康な中学生: 健康と安全の習慣を身につけ、体力の増進をめざす生徒 ○教養豊かな中学生: 基礎学力を身に付け、真理を愛し、向上心に富む生徒	○いじめや暴力を絶対に許さない学校環境の構築 ○個に応じた支援教育の充実 ○「開かれた学校づくり」とあいさつ運動の推進	○いじめや暴力を絶対に許さない学校環境の構築 ○個に応じた支援教育の充実 ○「開かれた学校づくり」とあいさつ運動の推進

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
1 教育課程・学習指導	学習指導要領の実施に対し、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を行う。ねらいに応じて、生徒の学びの振り返りを大切にし指導の充実を図る。わかりやすい授業の実践するため、GIGA端末や学習評価を有効に活用する。	教育課程を見直し、指導計画や授業展開の工夫につなげた。生徒の学習の振り返りから不安を感じることに对学习相談をGIGA端末等も活用し実施することができた。また、GIGA端末を活用して興味関心が高まる授業展開を工夫し、行った。	生徒の学習状況を把握し、教師の授業改善及び生徒の学習の定着を図っていくため、指導と評価の一体化を推進していきたい。GIGA端末活用による教育効果や生徒の取り組み状況を適切に判断し、効果的な活用方法について検討していきたい。
2 生徒指導	「きめ細かな生徒指導」を掲げ、生徒の安全・安心・安定を最優先とし、いじめを絶対に許さない学校環境を実現する。日常の教育活動全てが教育相談そのものと捉え推奨する。生徒の学校生活や、登下校の安全を図るため、学校生活のルールについても見直す。	「いじめ」等について、教育相談や学校生活アンケートを活用して早期発見、早期対応に努めた。不登校生徒への支援では、担任の関わりを中心にしながら、登校支援教室、支援コーディネーター、スクールカウンセラー等連携し行った。	主任会、支援教育部会を開催し、支援コーディネーターやスクールカウンセラーと緊密な情報交換に努め、関係職員の連携を図っていく。「いじめ」については、重大事案と捉え未然防止に努め、生徒の気持ちを大切にしたい対応を図っていく。また、「心配している 味方になる」姿勢で話を聞き、家庭状況も含め対応に努める。
3 支援教育	個々の生徒の状況や多様な教育へのニーズ、支援教育の充実のため、きめ細かい支援教育・合理的配慮を要する生徒の一層の充実を図る。また、不登校生徒の登校支援を実施するとともに、関係機関との連携も進める。	個別学習室(取り出し・入り込み)や登校支援教室を増設し、教諭を配置したことにより、よりきめ細かい生徒への支援ができた。また、GIGA端末を活用し、授業配信など生徒のニーズに応じて継続的な対応を実施することができた。	特別な支援を必要とする生徒は年々増加傾向にあり、支援に対するニーズ、登校支援など個に応じた対応が多様化している。そのため、個々の生徒の状況に応じたきめ細かい支援を継続的に実施していきたい。
4 キャリア在り方生き方教育	「コミュニケーション能力の向上の育成」をねらいとした、落語家さんによる講演会は、本校独自のキャリア教育の柱として実施する。また、職場体験は、地域の教育力を生かして実施する。体験活動を通し、働く意義等について考える機会・体験活動の実施を計画する。	本校の生徒に身につけさせたい力である「コミュニケーション能力」の向上を目指し、落語家を招いての講演会を3学年全てで実施することができた。また、2学年の職業体験学習では、地域の出身者、教わることを通して、働くことの意義をつかませ、自分の将来の職業選択に生かすことができた。	コミュニケーション能力の向上を目指した取組を今後とも継続していくとともに、人権尊重教育の充実を図りながら心豊かな生徒を育成するために、教科や行事等を通じて生徒に何かがわかり、何が身についたのかを考えさせていきたい。
5 人権教育	多文化共生教育等をはじめとする人権学習に取り組むことにより、他者とのちがいを認め、互いに尊重しあう意識や態度の育成を図る。また、障害者、性的マイノリティーなど多様な背景をもつ人々に対して、正しい知識の促進を図るとともに、自分のよさを認め豊かな人間関係をつくる。	本校卒業生のバラスポーツ、アイスホッケー日本代表選手による講演会、「リビッド」による講演会を通し、それぞれの個性や立場を尊重しようとする、道徳的心情を育てることができた。	障害者や多様な性について学ぶことを通して、差別や偏見のない社会を実現しようとする心情を高めていきたい。また、学校生活の様々な場面で、多様な性について考え続ける機会を提供していきたい。
6 GIGAスクール構想	GIGAスクール構想によって導入された一人一台情報端末を有効活用して、学習指導要領に示された資質・能力の育成に努める。また、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善に活用する。	GIGAスクール構想にある「つながる」学習を実践し、情報収集、授業配信を実施した。また、GIGA端末を活用して学習を協働しながら行い、自ら問題を発見し、解決方法を構想し、学びを深めることにつなげることができた。	情報活用能力を身に付け、それを発揮しながら各教科の学習を深めていきたい。そのため、学ぶ手段としてGIGA端末を活用した学習活動を意図的に設定し、他教科等とも連携した授業展開に取り組んでいきたい。
7 安全管理	地震・火災等、防災訓練は可能な限り計画通り実施する。また、「シェイクアウト訓練」は継続実施し、定着を図る。防災教育等、体験学習を通して、地域の防災力をつけること、自助・共助の精神を育む。	毎月の「シェイクアウト訓練」が定着してきた。放送と同時に自分の身を守る自助の行動が習慣化し、災害時の自助訓練と防災意識の向上が図れた。防災訓練も実施できた。	避難行動時の注意事項の徹底、避難経路の確認を行い、防災に対する心構え等、継続的に注意喚起をしていきたい。危険個所の洗い出しを行い、安全管理に取り組んでいきたい。
8 保健管理	感染防止を組織的、継続的に指導することを中心とする。健康教育として、熱中症対策、薬物乱用防止、飲酒や喫煙、性教育については年間計画に位置付け、指導する。	生徒の健康管理については、養護教諭を中心に進めることができた。健康教育は、実施計画に沿って予定通り実施できた。	感染症が続く中、改めて日常の健康管理が必要であり、重要であると認識している。健康を守っていくために、生徒との関わりを大切にしながら、健康についての資質の向上を一層図っていきたい。
9 組織運営	主任会、支援教育部会を定期的に開催し、緊密な情報交換に努め、学年の特長を生かした組織運営を図る。また、働き方・仕事の進め方改革の視点を踏まえた運営を図る。	学年の特長を維持しながら、学校として統一すべき内容を随時確認しながら、運営に努めた。No残業Dayの実施等、働き方の改革の実践に取り組んだ。	学年間の引継ぎ等を確実にし、継続的な支援の実践に努める。また、年間反省に基づき、デジタル化推進など働き方改革の視点を踏まえた教育改革を組織的に実現していきたい。
10 保護者・地域住民等との連携	開かれた学構づくりの視点から機会を可能な範囲で計画する。定期的に発行する「中野島通信」を学区内10カ所の掲示板に掲示したり、学校ホームページを利用したりして、保護者・地域住民等へ本校教育活動の広報に努める。	学校公開週間の期間を長く設定し、参観できる機会を数多く設けた。体育祭や合奏コンクール、文化発表会では、PTAと連携しながら実施し、日頃の生徒の活動を参観できる機会を実施した。「中野島通信」を学区内に掲示し、また、学校ホームページも更新した。	体育祭や文化発表会、合唱コンクール等の行事、内容の工夫、教育活動の発信の方法を検討していく。PTAの委員の活動内容、活動の在り方についても検討を継続し、見直しを進めていきたい。
11 その他	「生徒が大好きな中中、保護者に信頼される中中、地域に愛される中中」を目指して、生徒にとって何が良いのかの視点を大切にしたい。コミュニティ・スクール(学校運営協議会)を、感染予防対策を講じながら実施する。また、多摩区選挙管理委員会の協力を得て、今年度も主権者教育に力を入れる。	コミュニティ・スクール(学校運営協議会)を年3回開催した。学校運営計画、重点目標、学校予算、生徒の活動、学校評価等について委員に報告し、様々なご意見をいただき学校運営に生かした。また、生徒会役員選挙を多摩区の協力を得て、実際の選挙に近い形で実施し、生徒は主権者として意識を高めることができた。	さまざまな場面で生徒に教育活動を浸透させ、これから生きるために必要な資質・能力の育成に取り組んでいきたい。また、地域に開かれた学校として、様々な教育活動を通じて地域貢献を進め、地域と共に学校づくりに取り組んでいく。学校の諸行事や部活動については、小規模化に伴い、見直しを進めていきたい。

学校関係者の評価	学校運営のまとめ
学習指導要領に示された資質・能力の育成のため、「何ができるようになるのか」「何を学ぶのか」「どのように支援するのか」「何が身についたか」「何が必要か」を見据えて実践し、個に応じた指導の充実、わかる授業や支援教育などの充実を進めている。また、キャリア在り方生き方教育の実践として、「コミュニケーション能力の向上の育成」をねらいとした、落語家さんによる講演会では学べない生きた教材として大変有効である。職業体験に代わる職業講話は、将来へ向けた職業の知識を広げ深め、職業選択に生かせる学習となり、効果的である。生徒にとって何が良いのかの視点を大切に、学校運営に反映させた取組を行っている。	学校教育目標の実現のため、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を行い、わかる授業の実践に取り組んだ。興味関心が高まる授業展開の工夫、指導と評価の一体化の充実を図った。今後は、生徒が自ら学ぶ手段としてGIGA端末を活用し、情報活用能力を身に付け発揮しながら、各教科の学びを深めていく学習活動に取り組んでいきたい。「開かれた学校づくり」として感染対策を講じながら開催方法を工夫して、教育活動の参観の機会を設定した。また、コミュニティ・スクールの開催など様々な意見を学校運営に生かすことができた。今後は、個々の生徒に応じた教育の充実のため、指導や支援方法、内容の充実を図り、組織的に対応し、重点目標の達成に教職員総力の力を挙げて取り組みたい。